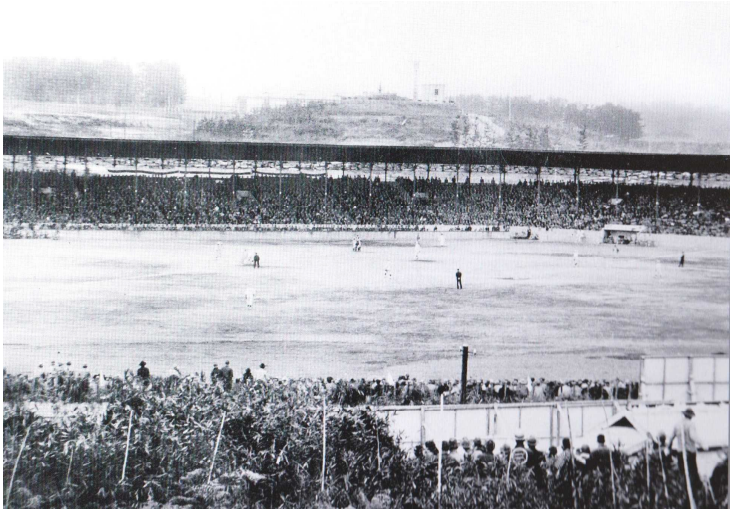
東の神宮、西の甲子園負けない本格的な球場を
ー日本初プロ野球発祥の鳴海球場ー

■沿線開発の一環に鳴海に球場を建設

1917（大正6）年5月8日、愛知電気鉄道（現・名鉄）は有松線を神宮前～笠寺～鳴海～有松裏の9.5Kmを開通した。有松町の絞商の共進組合をはじめ沿線関係者は鉄道敷設に協力的であった。

1903（明治36）年大学野球の第1回早慶戦、1915（大正4）年全国中等学校野球大会、1927（昭和2）年都市対抗野球（社会人野球）の野球熱が全国的に高まってきた。そうしたなかで、名古屋には山本球場があったが、「東の神宮、西の甲子園に負けない球場を」目指して愛知電気鉄道は沿線開発と乗客誘致を狙っての一環として鳴海に球場を建設した。 1927（昭和2）年10月に竣工した球場は、両翼106m、センターまで 132mと甲子園よりも広く、観客数22,500人を収容する大きなものでした。後の改修で4万人を収容するまでとなった。メインスタンドには後に鉄傘（鉄骨で組み立てたアーチ形の屋根）が設けられ、「伊吹スタンド」と命名された。



昭和初期の鳴海球場　出典『名古屋今昔写真集』

■ベーブルースらの米大リーグと対戦する名場面を残す

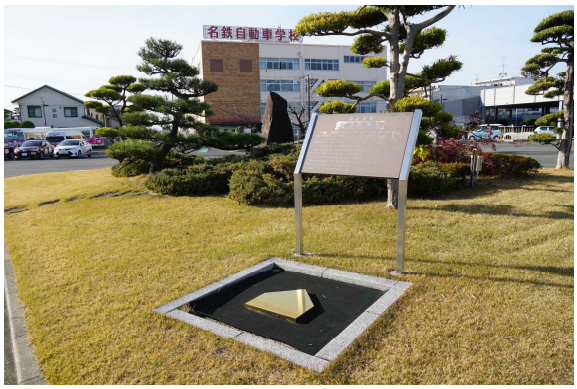
鳴海球場は、旧制中学野球などアマチャア野球の公式戦が行われた。1931（昭和6）年、ルー・ゲーリックら全米選抜チームと全慶応との試合、1934年にはベーブルースらの米大リーグ選抜チームと全日本選抜との試合、1936年日本職業野球連盟（現・プロ野球）が発足した年の2月9日、日本初のプロ野球の試合が、「東京巨人軍」と「名古屋金鯱軍」の対戦が行われ、金鯱軍が10対3で勝利した。

戦前に行われた公式戦は1938年4試合、1940年8試合にとどまった。戦時中は、鉄傘は金属供出で取り外され、スタンドは弾薬庫となった。戦後、1946年にプロ野球が再開されると、地方に進出した。中日ドラゴンズは名古屋を本拠地とし、鳴海球場でも公式戦を開催した。

1950年、ホームランが出やすくラッキーゾーンの設置、1951年公式戦の多数開催を見込み収容人員4万人に増加した。また、ドラゴンズ二軍の練習拠点となる。1958年閉鎖後、名鉄自動車学校を開校し、教習コースが設けられた。

■鳴海球場の開設80周年の記念

2007（平成19）年鳴海球場の開設80周年を記念して、かっての本塁の位置に金メッキのホームベースと鳴海球場の歴史を記した記念碑を設置した。



ホームベースと記念碑　　写真：筆者撮影

名鉄自動車学校教習コースと三塁側スタンドの一部

（大橋公雄）